



第 146 号

発行所 石川県羽咋市西釜屋町 石川県立羽咋工業高校 TEL (0767) 22-1193 編集兼発行 羽咋工高生徒会新聞部

第59回卒業式挙行 祝 卒 業



誰も負けず、誰も勝たないゴリラ社会

校長 北野 浩和

本日一〇七名が本校の卒業を終え、新しい第一歩を踏み出します。今年度はウィズコロナの中で、陸上競技部・剣道部・ソフトテニス部・ヨット部・コンピュータ部もほぼ例年通りに開催できました。入学式の翌日から臨時休業に入り、二か月遅れの始業となった学年ですが、三年間新型コロナウイルスに負けず、奇跡的に行くことができた沖縄修学旅行を初め輝かしい思い出を作ってきた皆さんには乗り越えられないものはないでしょう。卒業生の今後の活躍を祈りたい。

『サル化』する人間社会という本のタイトル、聞いたことがありますか。この本は、著者の山極寿一氏(総合地球環境学研究所所長、元京都大学 総長が、「上下関係も『勝ち負け』もないゴリラ社会と、『サル化』する人間社会の憂慮すべき未来の姿についての警鐘が書かれています。それは次のようなものです。二ホンザルの間で喧嘩が起った時は、他のサルはどちから一方に優勢して争いを止めようとする動きが起ります。たいていの場合、優位なサルに大勢が味方して、喧嘩を終わらせます。しかしゴリラはそういう態度をとりません。子どもいたオスたちは冷静さを取り戻して、一件落着となる

ゴリラ社会に優劣の概念がないことは、その食事風景を見てもよくわかります。ゴリラは群れの仲間と一緒に食事をします。この光景もサルには見られないものです。二ホンザル社会には完全な『ヒエラルキー(ピラミッド型の階級組織構造)』があります。ボスを頂点とした群れの中では優劣や上下関係がハッキリしていて、下位のサルが目の前で上位のサルに餌を奪われることは日常茶飯事です。優位なサルの前で劣位なサルは決して食べ物に手を出しませんし、食べる時には散らばって、互いに目を合わせないようにします。下位のサルは、上位のサルに遭遇したときに『グレイミス(口を開けて歯を見せる)』という表情を見せます。笑っているような顔で、相手に対する恐れや服従を意味して、上位のサルから敵だと思われないように媚を売っているのです。ところが、ゴリラは顔を向け合い、視線を交わしながら食事をします。優劣という意識がゴリラにならぬので、体の小さいゴリラが自分よりずっと大きいゴリラに近づいて、場所を譲るように要求することもあります。互いに触れればかなりの距離まで近づき、じつと顔を覗き込み続けると、大きいゴリラはその場所を去ります。せっかくな見つけた採食場所を譲ることによって、互いに許容する間柄、すなわち親しい仲であることを示したのです。これは、ゴリラ社会では食べることは食欲を満たす以上のものであり、食べ物共有することに大きな意味があるのです。同調と共存への願望ととれるでしょう。ゴリラは食べ物に前を向いて、共存と許容を仲間と示し合うのです。

令和四年九月三十日(金)、十月一日(土)の二日間で第60回羽工祭が開催されました。今回は、三年生の保護者にも参観していただき、模範店も開かれ、非常に活気ある羽工祭でした。初日は各クラスのスティージ発表があり、どのクラスも趣向をこらしたのになっていきいきとした姿が印象的でした。人との繋がりを深くして活躍していかれることを期待しています。(参考文献:『サル化する人間社会 山極寿一(著) 集英社インターナショナル』是非読んでみてください)

『サル化』する人間社会という本のタイトル、聞いたことがありますか。この本は、著者の山極寿一氏(総合地球環境学研究所所長、元京都大学 総長が、「上下関係も『勝ち負け』もないゴリラ社会と、『サル化』する人間社会の憂慮すべき未来の姿についての警鐘が書かれています。それは次のようなものです。二ホンザルの間で喧嘩が起った時は、他のサルはどちから一方に優勢して争いを止めようとする動きが起ります。たいていの場合、優位なサルに大勢が味方して、喧嘩を終わらせます。しかしゴリラはそういう態度をとりません。子どもいたオスたちは冷静さを取り戻して、一件落着となる

令和四年十月十五日(土)にコスモアイル羽咋で本校創立六十周年記念式典・記念演奏会がおこなわれました。徳田博石川副知事、県議を代表して稲村建男県議をはじめ多くのご来賓にご臨席賜りました。県内外の沢山の同窓生にも参加していただき、非常に素晴らしい記念式典となりました。来賓祝辞の中で、「地域共

退職にあたって

建設・デザイン科(土木) 教諭 梶川 誠

月日が経つのは早いもので、石川県で教壇に立つて三十六年が過ぎ去ろうとしています。こんなに長く勤めさせて頂いたことに感謝したいです。その内、本校では通算二十二年間もお世話になりました。その間には、主に建設造形科の土木コースを担当してきました。最初に赴任したときは、二クラスあつて土木を選ぶ生徒は殆どが男子生徒であり、部活動で中心に活躍する生徒が多く、とても元気がかつたと思います。ただ、建設業界は不況で就職先を決めるには大変でした。それでも皆元氣

ふり返り

建設・デザイン科(建築) 教諭 久保 芳男

もう二十年以上前の七尾工業高校にいた頃の事です。廊下ですれ違ひさまに学校長から『あなた、専門、建築だったの?』と聴かれ、つい『羽咋工業に異動させて貰えるんですか?』と答えたのを思い出しました。『そんなに都合良くないけれどね。』と言われ、いまさらながら『あつた』という言葉を返しました。生徒の皆さんに感謝したいです。本校の生徒の皆さんには、必ず何らかの可能性はあるはず。是非、体を大切に、与えられた時間を無駄にせず、可能性をいかして欲しいと思います。

創立60周年記念式典開催

令和四年十月十五日(土)にコスモアイル羽咋で本校創立六十周年記念式典・記念演奏会がおこなわれました。徳田博石川副知事、県議を代表して稲村建男県議をはじめ多くのご来賓にご臨席賜りました。県内外の沢山の同窓生にも参加していただき、非常に素晴らしい記念式典となりました。来賓祝辞の中で、「地域共

記念事業

石川県立羽咋工業高等学校 創立60周年記念 建築の精神 刻み 造り